

2023年 2月 9日発行 会報第1134号

今週のプログラム

(2023年2月9日 第1134回例会)

卓話：ナノセルロースの話

担当：岸上 和典 会員

次週のプログラム

(2023年2月16日 第1135回例会)

職業奉仕 フォーラム

担当：高尾 修委員長

第1133回例会 (2023年2月2日) の記録

「会長の時間」

山田 克子会長

2023年が始まり「今年もよろしくお祈りします」と皆さんにご挨拶したのが、つい最近だと思っていましたが、1月も終わり2月に入りました。明日は節分です。

そして2月のロータリーのテーマは「平和構築と紛争防止」月間です。1905年2月23日はロータリーの創始者ポール・ハリス氏が友人3人と最初に会合を持った日であり、ロータリーの創立記念日です。この日は「世界理解と平和の日」として国際理解の友情、力を尽くして平和へのロータリーの献身を強調する月間です。

将来リーダーとなることが望まれる若者を対象に、研修の実施や紛争地域における平和構築の支援月間でもあります。そんなロータリーの“平和を願い、戦争に対する予防月間”でもあるのに、今こうしている間もロシアとウクライナの戦争を止めることが出来ない世界状況に憤りを感じます。私達に何が出来るのか、こうして私達が食事ができている間にも戦争で命を亡くしている人々がいると言うことを忘れてはいけないと感じます。

節分を迎え、新しい年を改めて迎えるのですが、コロナや戦争、悲惨な事故、雪による災害など希望を持って新たな年に向かうには難題の多い社会となったように思います。

本日私は、帝釈寺の節分祭福護摩祭りで火渡りをしてまいりました。新しい年の幸せと安全を祈念する伝統行事です。幸せと安全、平和な世の中になることを願いたいと思います。



<お客様> 2022 学年度 米山奨学生 グエン キム フンさん

<出席報告> 高尾 修 SAA 補助

会員数 (内出席免除会員 1 名) 19 名

本日の会員数 11 名

(内出席免除会員 0 名)

(内名誉会員 0 名)

本日の出席率 61.11%

<ロータリーソング> 全会員

♪国歌 君が代♪

♪奉仕の理想♪

<本日のピアノ曲> 近藤 美里さん

1. Jupiter

2. 若き王子と王女 (シェラザードより)

3. チャルダッシュ

<今月のお誕生日> 山本 友亮会員 10 日 水島 洋会員 21 日



Happy
BIRTHDAY

<幹事報告>

山本 友亮 幹事

1. 今週末 2 月 4 日 (土) に千里阪急ホテルで IM 第 2 組ロータリーデーが開催されます。案内チラシを再度回覧致しますので、ご出席予定の方は、よろしくお願い致します。
2. 本日、確定申告用寄付金領収書をお渡し致しますので、各自お持ち帰りください。
3. 本日例会終了後、理事会を開催致しますので、理事・役員の皆様はご出席下さい。

《本日のお料理》



1. 冷菜三種 (山クラゲ湯葉巻・豚肉煮の煮ごり・牛スネ肉香煮)
2. 牛蒡とせりのスープ
3. 春巻、黒豚焼売
4. ふんわり柔らかか蟹玉
5. 四川麻婆豆腐
6. ご飯とザーサイ
7. ココナッツミルク

<SAA報告>

水本 徹 SAA 補助

※スマイルボックス

藤田会員 明日は豆まきと恵方巻きです。
黒川会員 寒いです～！！

ラオス基金

水島会員 ラオスの子供たちは元気でしょうか？
黒川会員 加奈子さんから感謝！！

※ロータリー財団

松田会員 友亮さんの卓話を聞きに来ました。
黒川会員 コロナ こわいで～す！！
相原会員 コメントなし

※米山記念奨学会

松田会員 皆さん 覚えていますか？ 松田です！！
水本会員 グエンさん 気を付けて帰省して下さい。親孝行もシッカリとネ！
藤田会員 松田会員 お久しぶりです！！
山田会員 グエンさん 気をつけて帰って下さいね。
黒川会員 岸上さん 今日から毎回出席！！
相原会員・山本(雅)会員 コメントなし

※メイプル基金

岸上会員 寒い。
松田会員 お久しぶりです！！
山本(友)会員 今日は皆さま、よろしく御願ひします。
藤田会員 山本友亮会員 卓話楽しみです。
山田会員 山本幹事、卓話よろしくお願ひ致します。
黒川会員 庭の梅の花が満開！！



<卓話>

私の憧れの人・尊敬する人

山本 友亮会員

今回卓話をするに際し、はじめは「わたしの尊敬する人」で行こうと思っておったのですが話す内容を作っている時に初めのお二人は単に憧れていた人だなと感じ、タイトルを変更しました。

まず、私は社会人になるまでは野球とプロレスの番組ばかりをテレビで見えておりましたので、長嶋茂雄選手とアントニオ猪木が憧れの人でした。巨人が嫌いで、現役時代は阪神が痛い目にあわされることが多かったのが嫌いでしたが、現役時代の姿を思い起しますとやはり魅せるプレー、かっこいいプレーを常に追求されていてあの人以上にかっこいい 3 塁手はその後見ていないように思います。ゴロをさばく姿、投げた右手を指先まで伸ばして 1 塁に向ける、また、跪いた状態でアウトになったあとのボール回しの姿、本当に格好良かったと思います。空振りする時にヘルメットを飛ばす練習までしていたとかの逸話もあるほど、プロとして魅せるということを研究し続け、そして守備も打撃も走っても超一流でありました。阪神の江夏投手が長嶋選手との初対決で 2 塁打を打たれたようですが 2 塁ベースの上でスライディングでついた砂を何気なく払う姿があまりにもかっこよくて打たれたけど腹もたたなかつたそうです。野球ファンだけでなく日本中で愛された長嶋選手を引退されてからも本物のスターとして尊敬しております。また、これも聞かれたことがあるかとは思いますが、遠征に出発する際に駅の駐車場にエンジンをかけたままで止めていたや、球場に車で行って中に子供の一茂を忘れておいてしまった、片方の足にソックスを 2 枚履いてソックスがないときがしていた、宿舎の食堂にみんなで食べるようにと切っておいてあったメロンかスイカの一番美味しい真ん中の部分をすべて食べてしまった、とか数えきれない逸話もたくさん残しておられ人間としての魅力もいっぱい的人物だと思います。昭和の時代には老若男女問わず知らない人がいなかったのではないのでしょうか。

次はアントニオ猪木さんですが当時金曜の夜 8 時と言えば新日本プロレスの中継時間でした。プロレス中継を見て 9 時から山口百恵の赤いシリーズのドラマを見るのが習慣でした。レスラー生活の後半には事業資金などのややこしい話もあり少し私の気持ちもトーンダウンしてしまいましたが、当時は必死になってプロレスを見ておりました。友達などからもプロレスは八百長やないか、と言われながらも真剣勝負と信じて疑わず、猪木こそ世界で一番の男だと思い込んでおりました。考えたらロープに飛ばされてまっ直ぐ返ってくるとか鉄柱攻撃をされても手を出せば防げるのに鉄柱に当たりに行くとか、当時は不自然だとは思っていませんでした。真剣勝負と思いつ込み猪木こそ世界一強いと信じておりました。昨年に残念ながら猪木選手はお亡くなりになりましたが、過去の試合などがケーブルテレビで何度か放送されておりました。やはり猪木選手は相手の技を受けることが天才的に上手くて相手の良さを十二分に引き出す天才だとあらためて感じました。ほかのレスラーの動き、受け身などをくらべても格段の差があり素晴らしい演出家だと思います。猪木ならたとえ箒が相手でも試合にしてしまう、ということがよく言われておりましたが、まさにその通りだと思います。思い起こすと日本人大物レスラー同士の対決、ストロング小林戦 パキスタンに遠征しての命がけのアクラムペールワンとの一戦、パキスタンの国民的英雄である相手の腕を骨折させてしまった戦いです。その前にはボクシングの世界ヘビー級チャンピオンのモハメッドアリとの闘い、当時は世紀の凡戦と日本中からたたかれましたが最近ではいろんな真実がわかってきて、相手側からの再三のルール変更で猪木は寝転がって蹴りをいれるしかできなかつたと。しかしながら、相手のモハメッドアリは試合後韓国で極秘入院をして猪木に蹴られ続けた足の治療をしていたそうです。寝転がりながら本当に相手にダメージを与えていたのですね。今、お話したパキスタンでの試合とアリ戦はまさに真剣勝負だったと私は分析しております。ということは、やはり猪木は世界一強かったのかもしれない。

このように日本中に話題を振りまき国民の一部ではあるでしょうが熱狂させたスターだという意味においては尊敬しておりました。このお二人が、社会人になるまで私が憧れていた人であります。

「尊敬」という意味をインターネットで調べてみますと、他人の人格や行動の素晴らしさに感じ入り、頭を下げるような・仰ぎ見るような・見習いたく思うような気持ちになること、とありました。

社会人になって最初に横浜で一人暮らしを始めましたが、その住まいがテレビの映りが非常に悪かったことが幸いし少しずつ本を読むことになっていきました。本屋で一冊の本と出会い尊敬する人を見つけることができました。その本は小林吉弥著の『田中角栄の才覚・松下幸之助の知恵—二人の男の成功と失敗から学べ』という書物でした。私はこの本を読んで松下幸之助さんではなく田中角栄元総理を尊敬するようになってしまいました。この本の作者である小林吉弥さんは数々の角栄本を出版されておられますが、どの本も角栄さんの良いところばかりを書いておられるように思います。

しかし、私にとっては読むたびに、凄い人だな！あんな人になりたいな！と痛快な気持ちになります。やはりロッキード事件や金脈問題など功罪相半ばする角栄さんですが私にとっては尊敬する人物であります。「政治は生活だ、国民が働く場所を用意して、三度、三度のメシを食べてもらう。外国と喧嘩せず、島国で豊かに穏やかに暮らしてもらう。それが政治だ」が基本の考えで、人と会ったときには「おい、メシ食ったか？」があいさつ代わりに言葉だったそうです。それはその時代、昭和30年代、40年代の話であったでしょうが全国民に対しても「メシ食ったか」言い換えれば「メシ食えてるか、生活できてるか？」ということを問いかけ続けた政治家だったと思います。本当に戦後からの昭和にかけての時代をこの考えでまっしぐらに進んだ素晴らしい政治家だったと思います。何度も申し上げますがキレイ事ばかりではなかったとは思っておりますが。「庶民宰相」「今太閤」「コンピューター付きブルドーザー」などなどの異名をとどろかせた田中角栄さんであります。数十冊の角栄本、どれも似たような内容なのですが私が心を打たれたエピソードを2つほど本から引用させていただきます。まずは『お葬式のお花の話』です。ロッキード裁判が世間の注目を集めていた1970年代、自民党三木派の代議士のご夫人が若くして病没した。この代議士は角栄とは派閥を異にするため決して近い関係ではなかった。だが、角栄は訃報を聞くと同時に彼の地元の福島に供花を届けさせた。その数日後、通夜と葬式が執り行われることになった。夏の暑い日、葬儀場に見たこともないような大きな生花がメッセージとともに新しく届けられた。送り主は田中角栄であった。「暑い季節、前に送った花はしおれているでしょう。新しい花を届けます。どうか新しい花と代えて下さい。ご冥福をお祈りいたします。」というエピソードです。2つ目はあまりこの場ではふさわしくないエピソードになりますが『ある1年生議員のオンナとカネの話』です。

ある新人議員が女性問題を起こし、どうしても100万円が必要になった。しかし、期日までにどうしてもそれが工面できない。角栄にすべてを話し、借金を申し入れた若手議員に対し、角栄は途中で話を遮って「わかった。カネは届けさせる。」と答えた。わずか30分後、田中事務所から紙袋とメモが届けられた。中身は300万円だった。メモには「まず100万円でケリをつける。次の100万円で迷惑をかけた人たちにお礼をしろ。残り100万円は取っておけ。返済は無用」と書かれてあったとの事です。このようなことが多々あった角栄さんは、まさに人心掌握術の天才でした。真似はできませんが「私の尊敬する人」であります。まだまだエピソードはありまして、自民党総裁を福田元総理と争って勝ち取った話などなどもあります。本日の卓話はこの辺りにさせていただきます。

